

道路管理事業の今後について

特別顧問 宇田左近
特別参与 安川新一郎

1. 幹線道路1kmあたりの道路管理補修費は、他都市を上回る。その理由として（1）防護柵・照明などの安全対策の充実（2）舗装の高機能化といった要素が示されているが、今後は、さらに具体的・定量的な差異分析を行い、その必要性が費用に見合った価値が提供できているか検証すべきである。またその上でコスト削減を図るべきである。
2. 橋梁、トンネルなどのインフラについては、対症療法的支出と予防保全管理支出の対比において後者の負担が少ないことは示された。今後は予防保全管理工事自体の効率性、生産性についても明らかにしていく必要がある。
3. 無電柱化は現在の予算で約185億円（全体の予算の15%程度）。このペースでは、都内全域をカバーするには100年単位の時間軸が必要。優先順位の付け方、実施主体の選定方法、狭域での実現による周知効果等を検証し、短中期の時間軸内で具体的かつ都民から見て目に見える効果を実現すべきである。
4. 今後の課題は、（1）道路管理における効率化と生産性向上の具体策と達成目標の設定、（2）予防保全管理の適用拡大の具体策、（3）無電柱化における優先順位付けと具体策の明確化である。いずれについても実現に向けた具体策と実施工程を早急に示すべきである。